

Jミルクが2019年10月4日に公表した直近の「需給見通し(※2019年8月迄実績)」の予測値と実績をグラフ化しています。

毎月25日の「牛乳乳製品統計(農林水産省)」の公表に併せて、今後も随時、配信していきます。

発行: 一般社団法人Jミルク生産流通グループ

【生乳生産量】

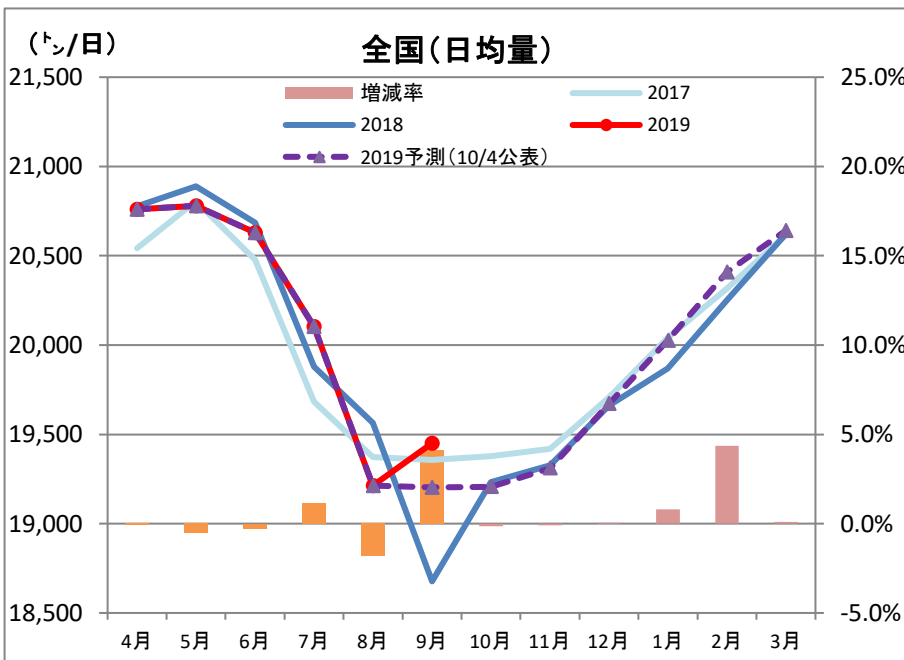
(1)9月の生乳生産量は、全国584千ト(前年同月比104.1%)、北海道331千ト(同110.3%)、都府県252千ト(同97.1%)。

(2)北海道は、Jミルク10/4予測値(325千ト、同108.1%)を2ポイント強上回った。想定以上の伸びは本年度産の自給飼料の出来が良かったことが考えられる。9月の日均量が8月を超えたのは2015年度以来4年振り。

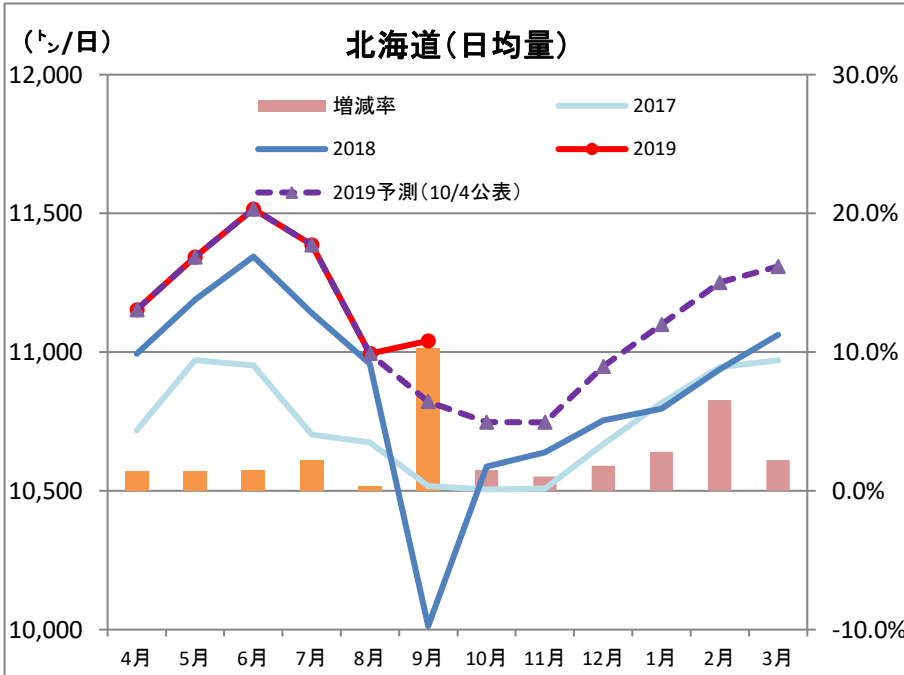
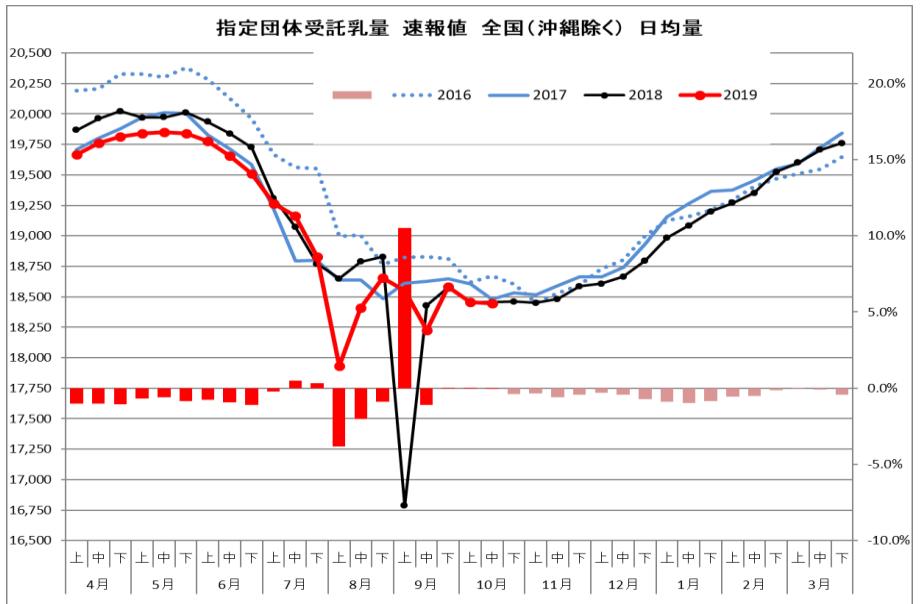
(3)一方都府県は8月(255千ト、同95.5%)より日量が回復したものの、台風15号のため長期化した停電により千葉県で大きな被害が発生したことや残暑の影響もあり前年を3ポイント程度下回った。心配された千葉県の生乳生産について、直近の状況を見ると災害前の8月下旬程度まで回復している。

(4)10月の指定団体速報値は、全国が同100.0%、北海道が同102.0%、都府県(沖縄除く)が同97.4%(※北海道は下旬まで、全国・都府県は中旬まで)。

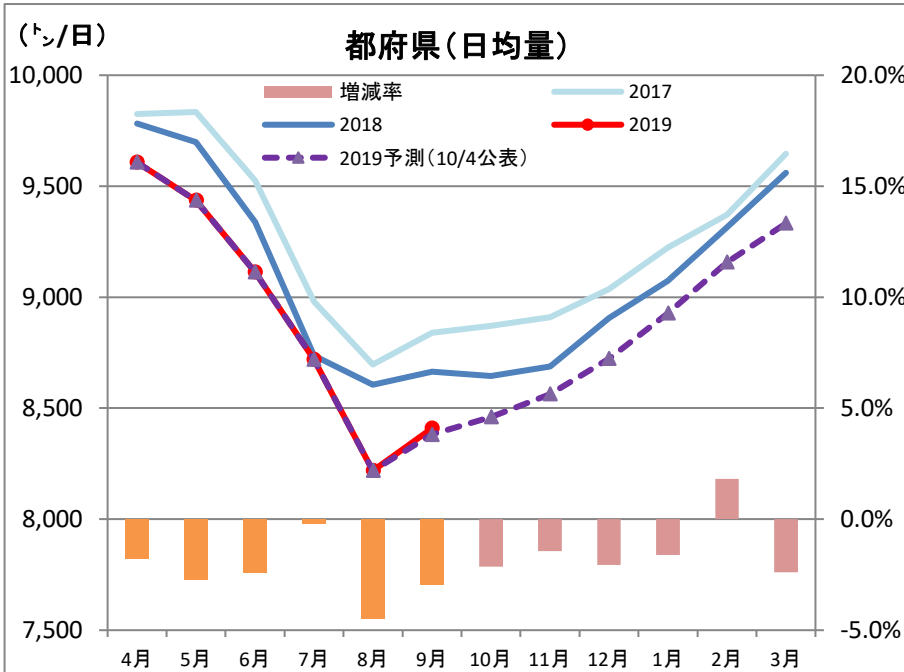
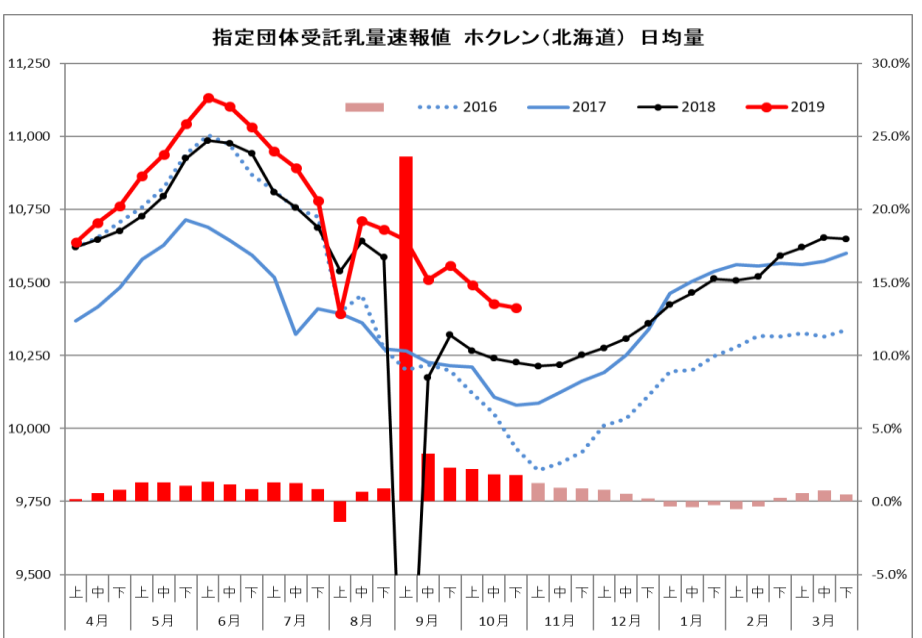
北海道は引き続き好調である一方、都府県は日量は徐々に回復しているものの、前年3ポイント割れが続く。それぞれの地域をみると、東北・関東・東海・四国・九州が概ね3ポイント割れ、近畿が概ね2ポイント割れ、北陸が概ね5ポイント割れ、中国は唯一前年を超えており、+1ポイント弱。都府県における出生頭数は7月より前年を超えているため(5頁参照)、今後の生乳生産の回復に期待したい。



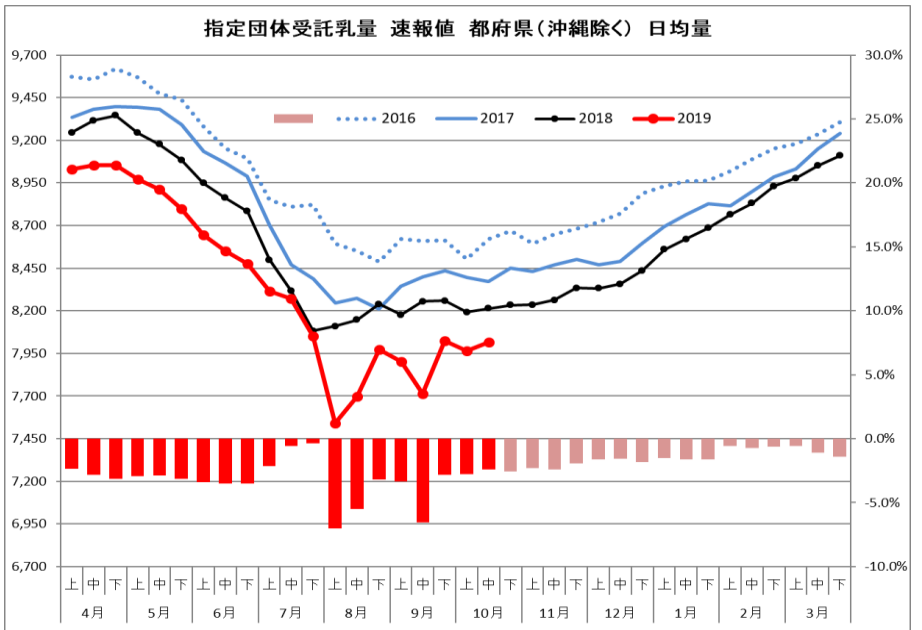
10月中旬まで 指定団体速報値 全国(沖縄除く)



10月下旬まで 指定団体速報値 ホクレン



10月中旬まで 指定団体速報値 都府県(沖縄県除く)



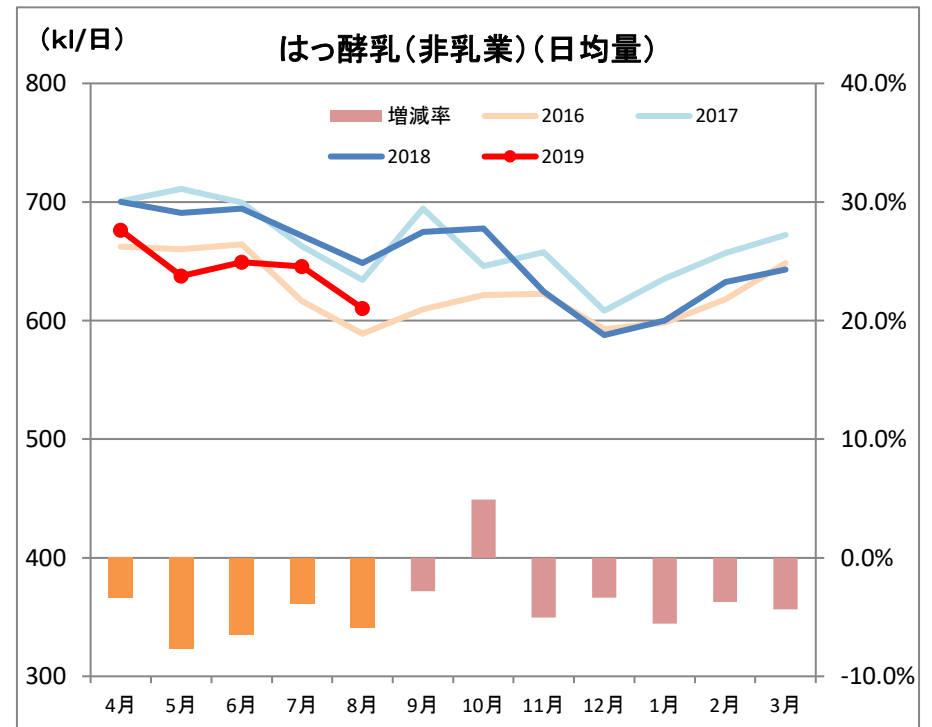
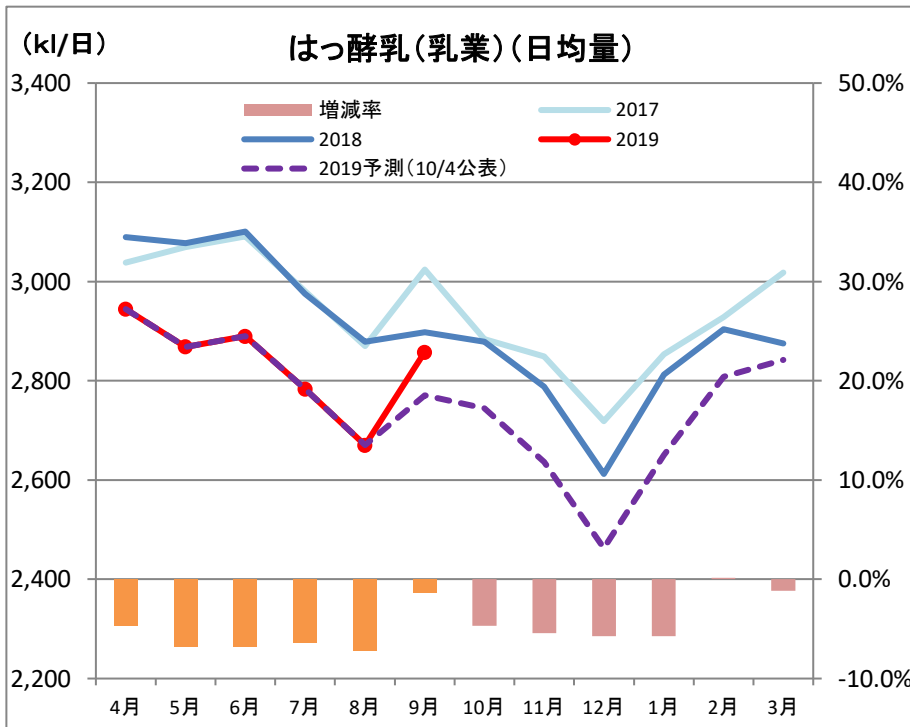
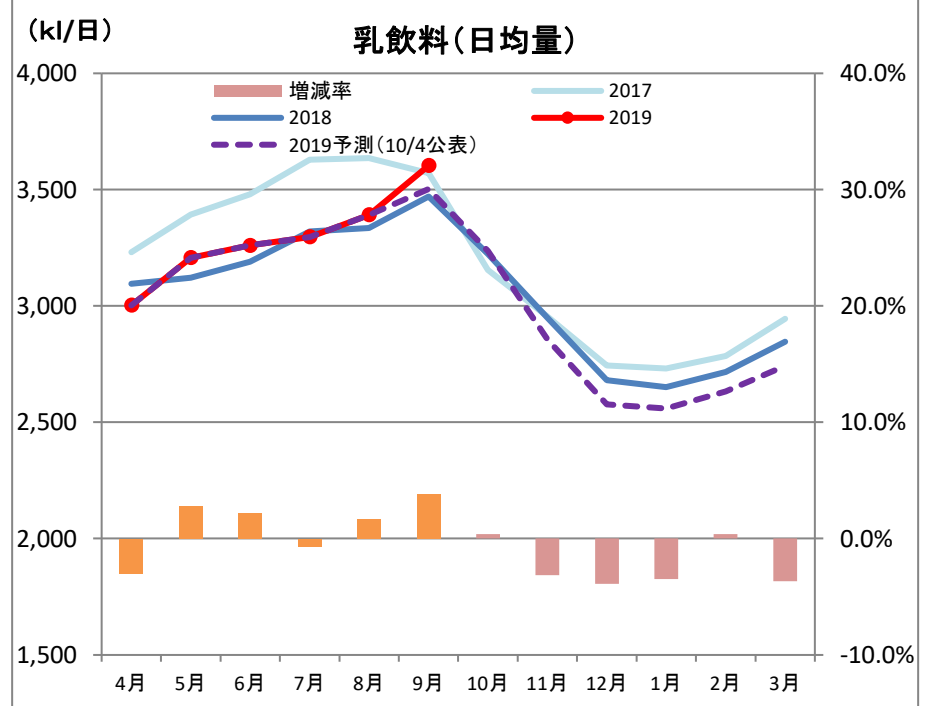
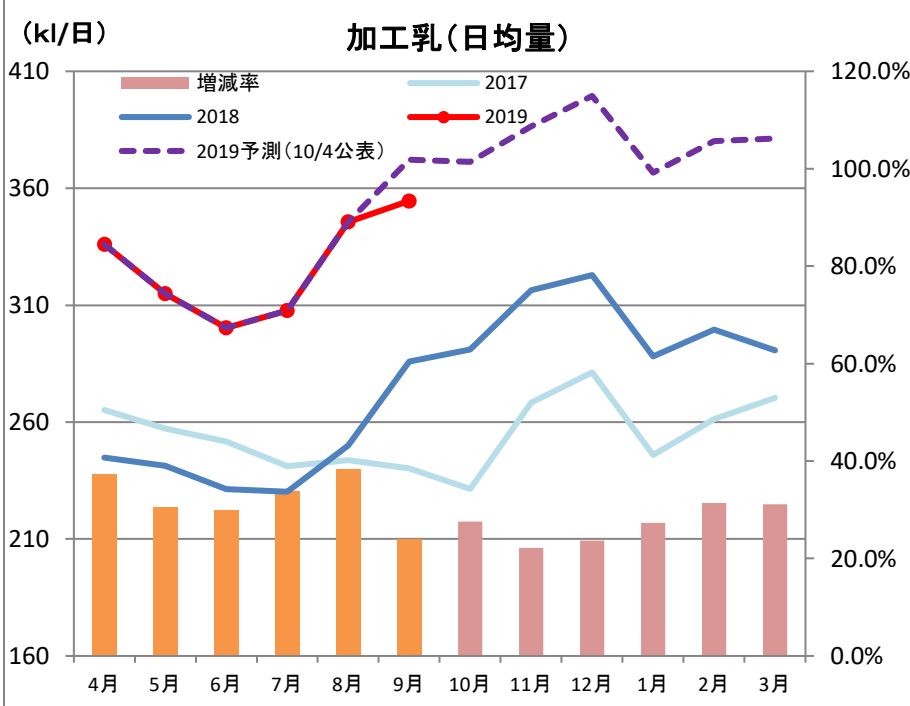
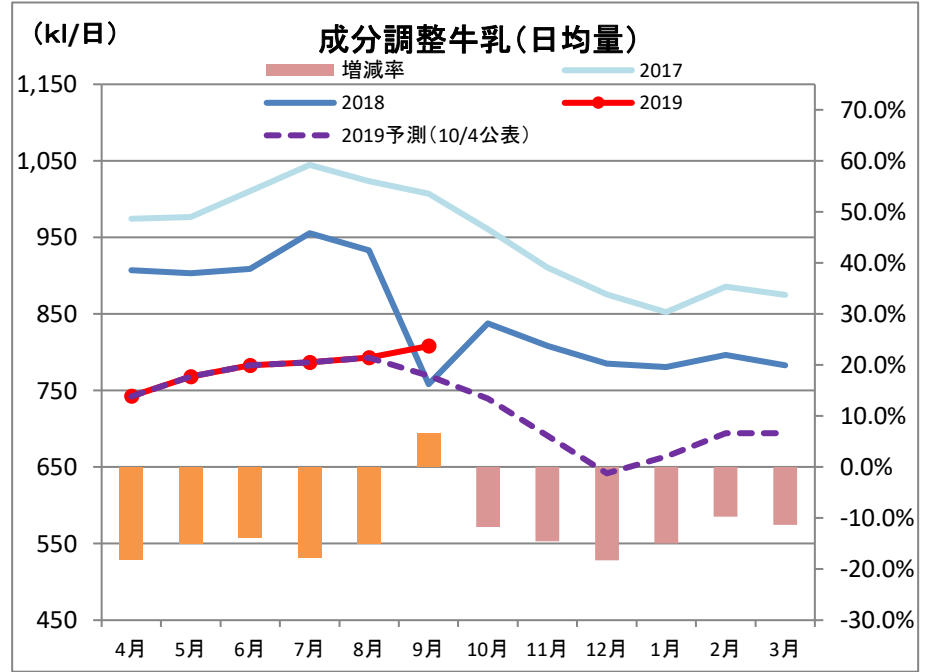
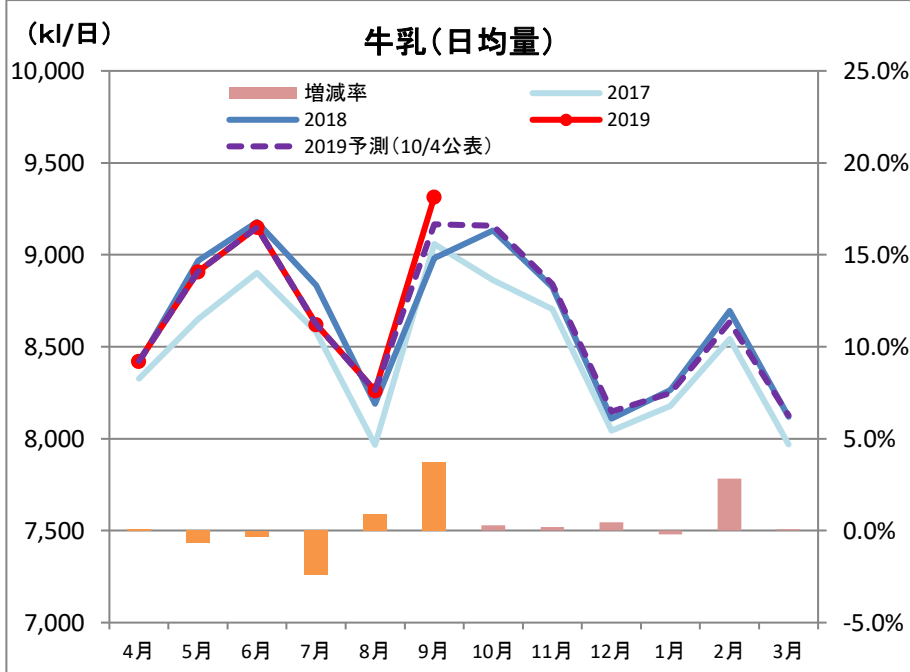
【牛乳等生産量】

(1)9月の牛乳等生産量は、牛乳279千kl(前年同月比103.7%)、成分調整牛乳24千kl(同106.6%)、加工乳11千kl(同124.0%)、乳飲料108千kl(同103.8%)となり、牛乳類で422千kl(同104.3%)となった。

(2)7月の梅雨寒から一転8月以降は天候の回復にともない、需要も回復し牛乳は前年を超えて推移している。9月は昨年(北海道胆振東部大地震発生による影響)の反動があるものの、各品目好調であったといえる。特に業務用牛乳は29千ト(同114.1%)と大きな伸びをみせている。

(3)一方で、はっ酵乳(乳業)は86千kl(同98.6%)と前年を下回り、13ヶ月連続で前年割れ、8月の非乳業実績についても同94.1%と10ヶ月連続で前年割れとなり、ダウントレンドが続く。はっ酵乳消費の減少は、その原料となる脱脂粉乳・脱脂濃縮乳需要に影響を及ぼしている。

※はっ酵乳(非乳業)資料:(一社)食品需給研究センター「食品製造業の生産動向」

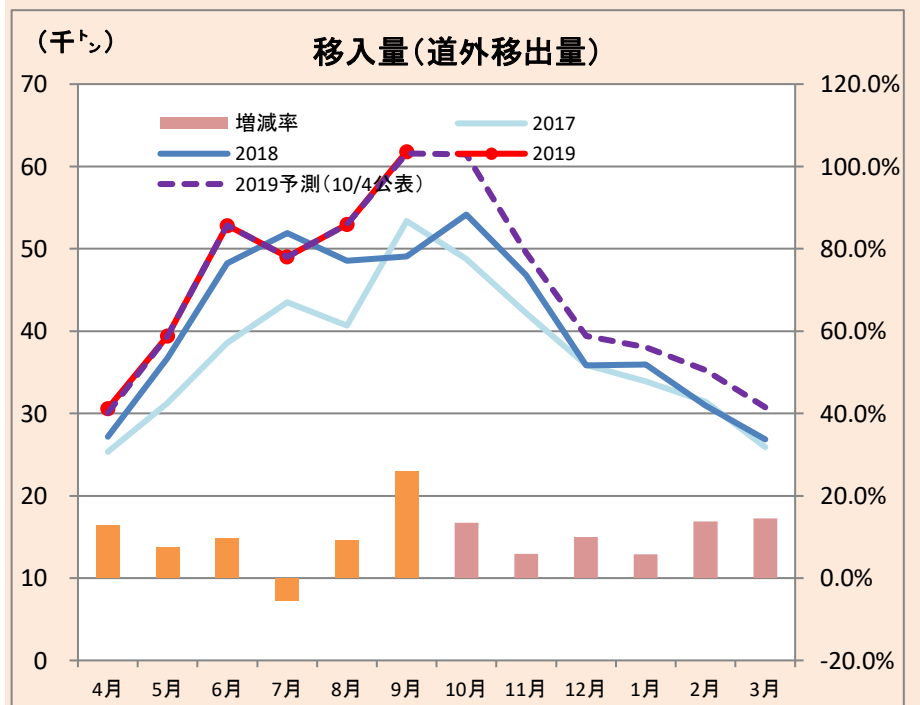
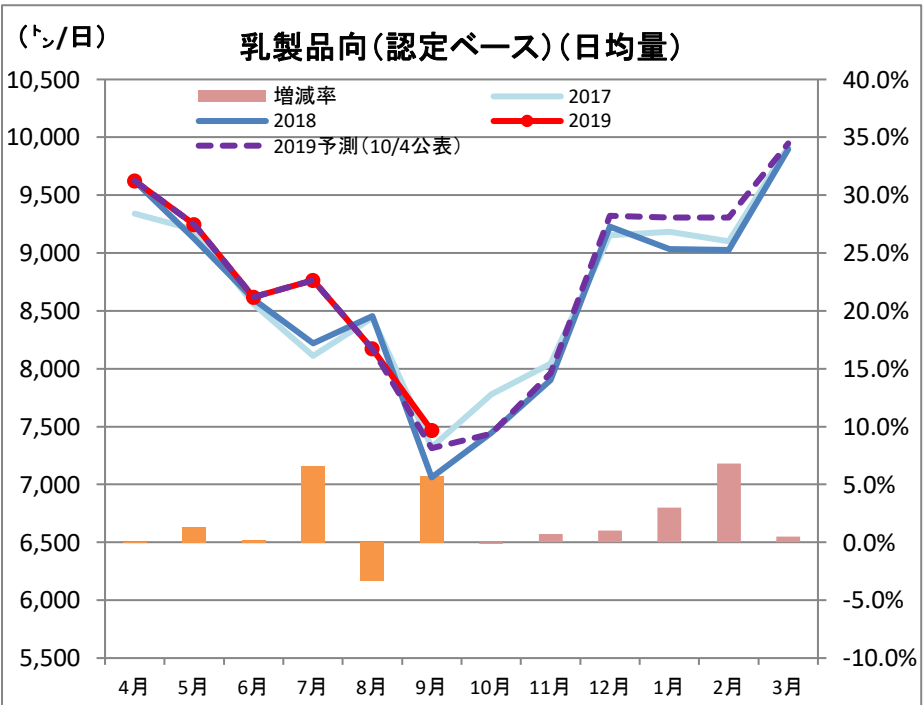
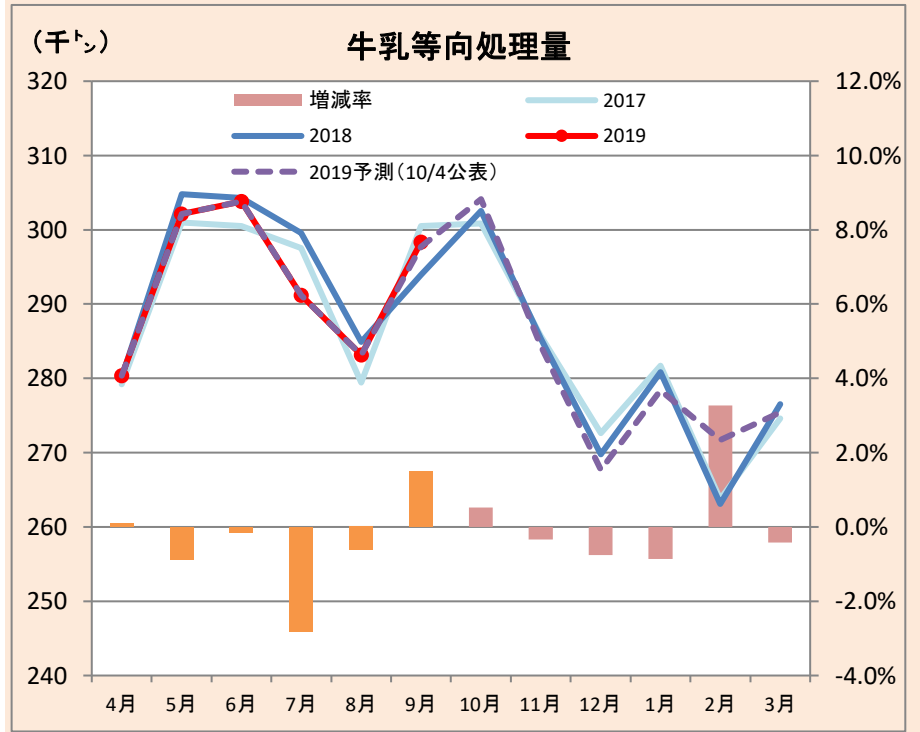
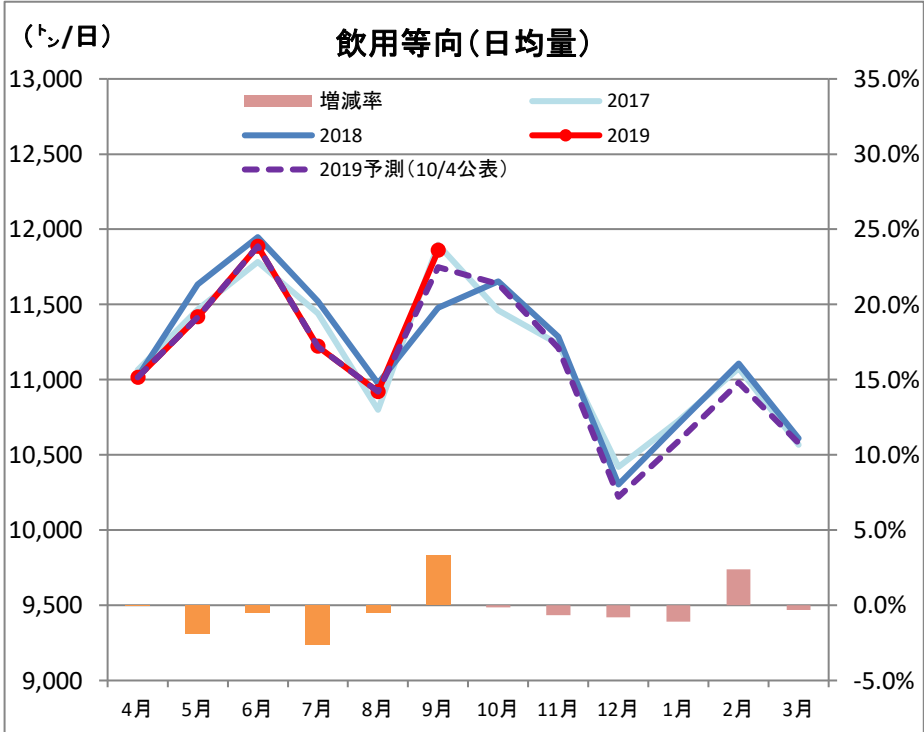
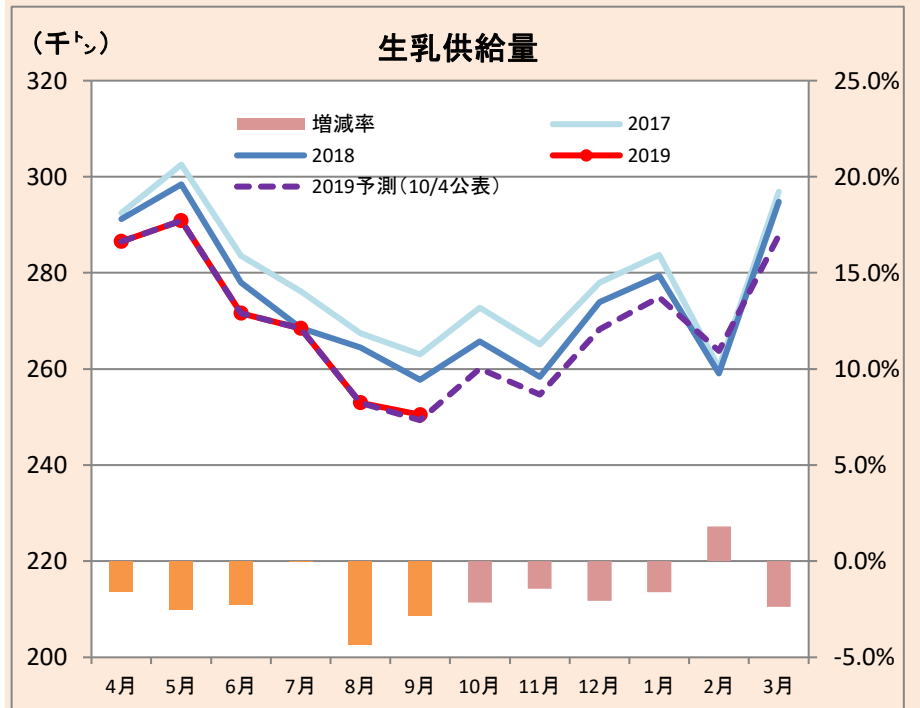
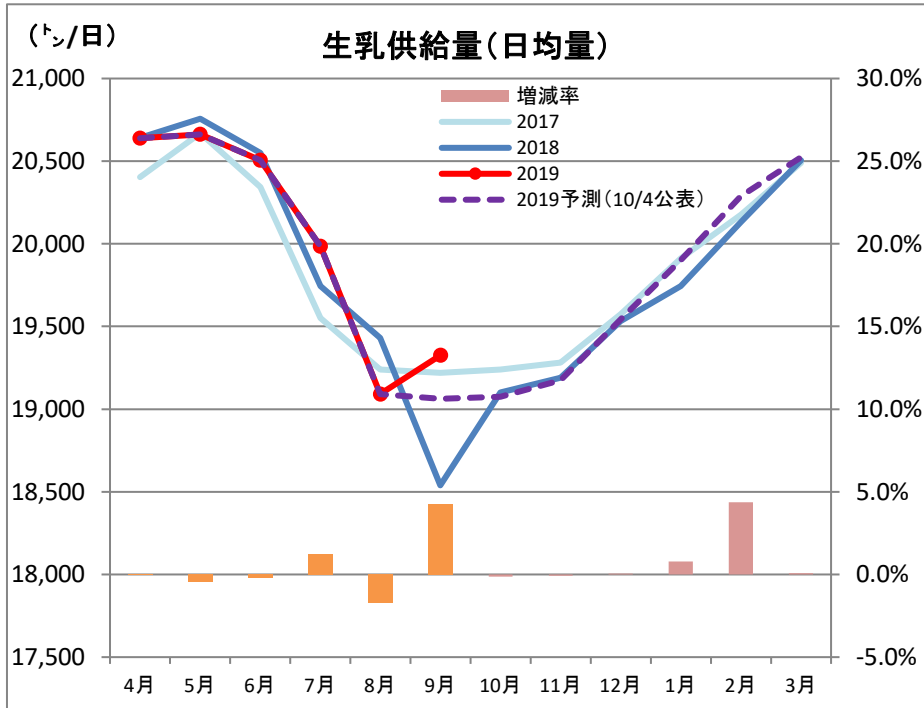


【用途別処理量】

(1)9月の生乳供給量は580千ト(前年同月比104.2%)、飲用等向356千ト(同103.3%)、乳製品向(認定ベース)224千ト(同105.7%)。
 (2)昨年の北海道胆振東部大地震の反動はあるものの、飲用等向は概ね2年前の9月(357千ト)並みの水準。乳製品向も前年を超え、脱脂粉乳・バター等向については、同110.7%となり2年前の9月(84千ト)を超えた。

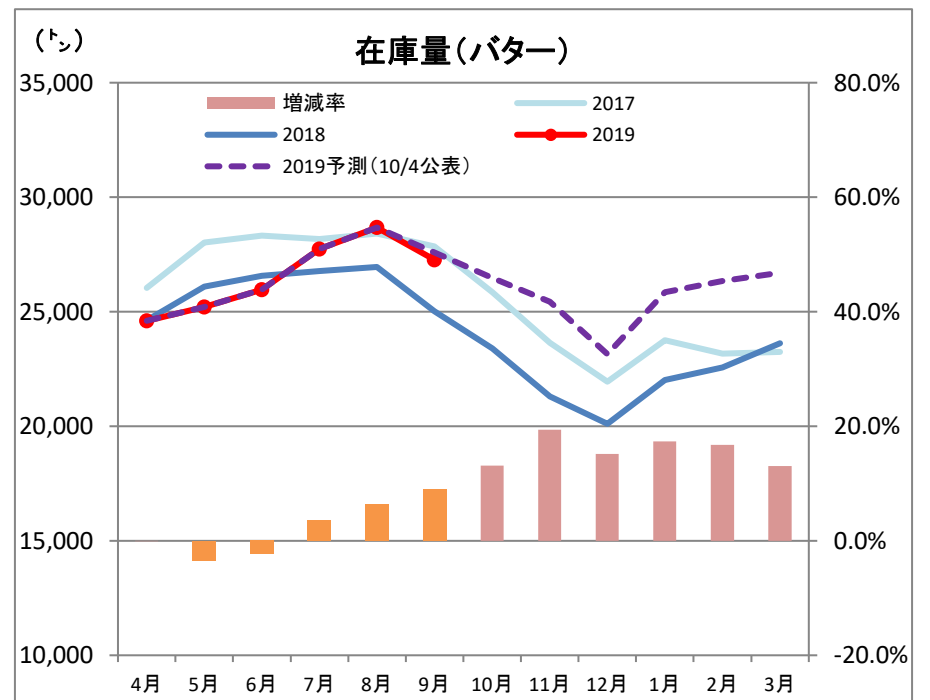
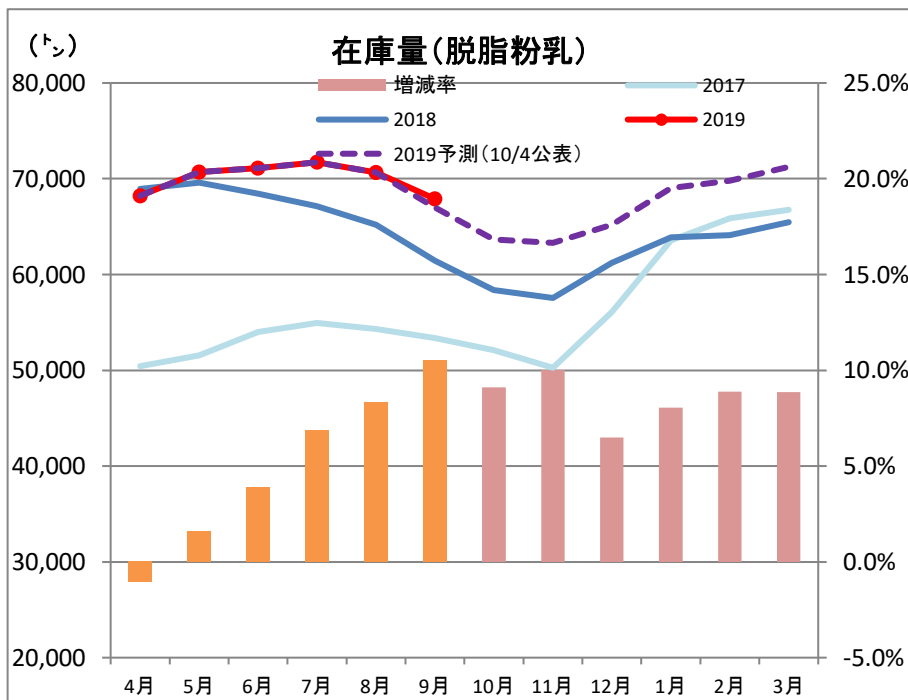
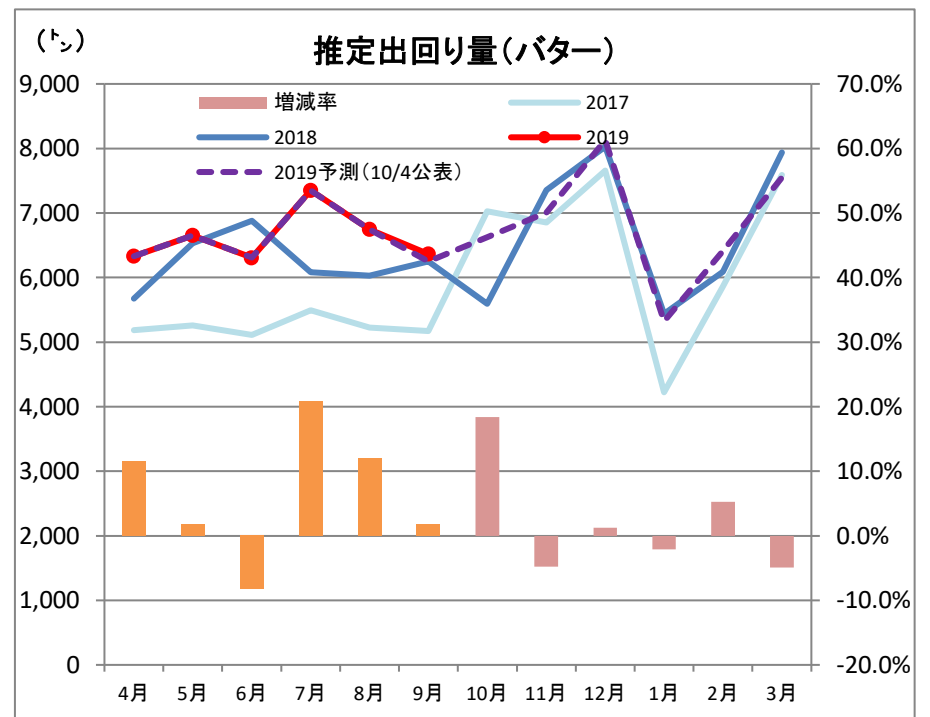
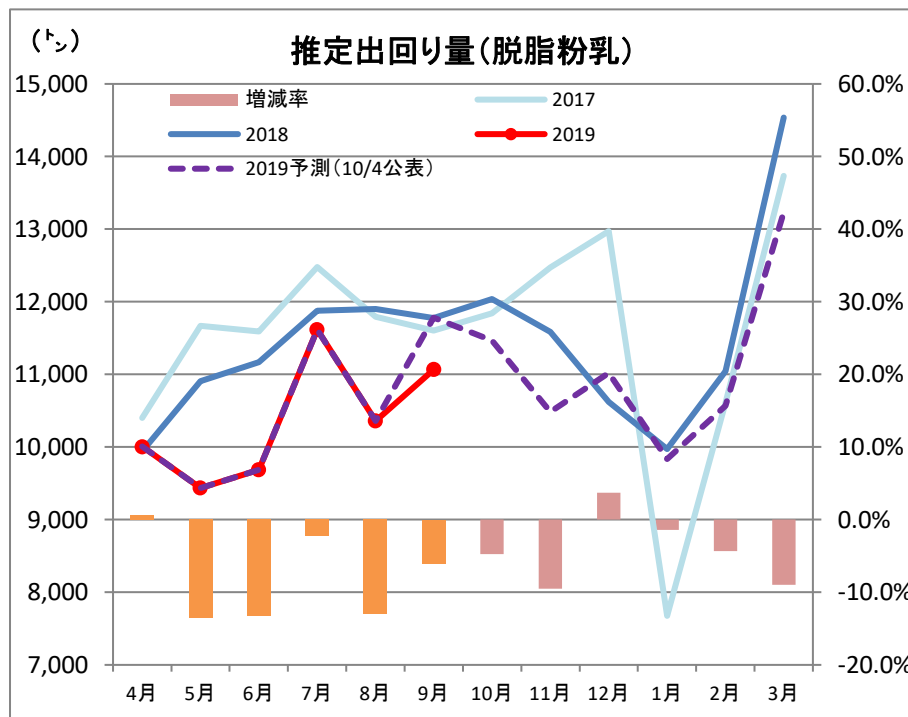
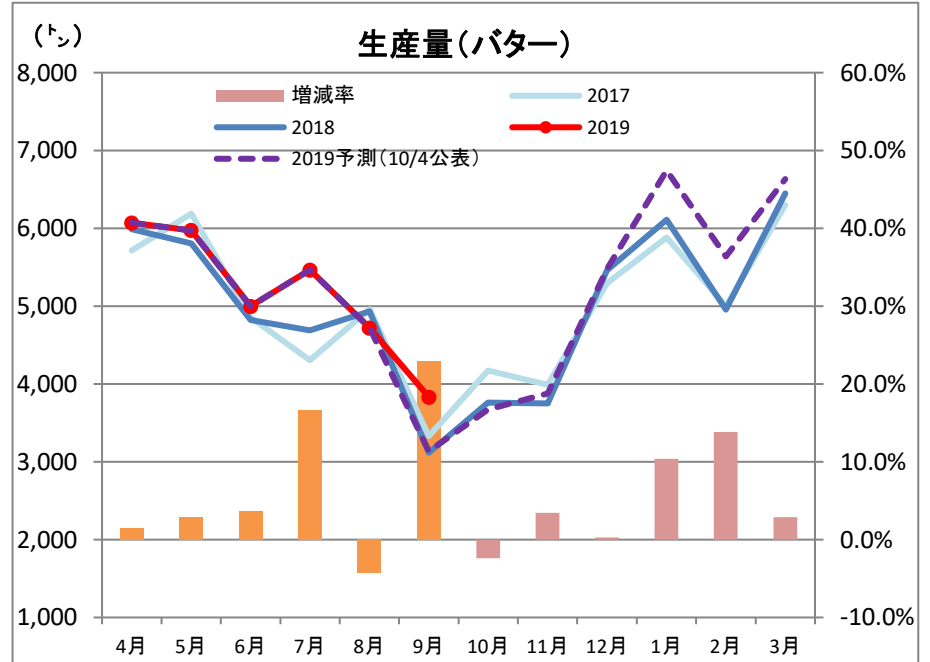
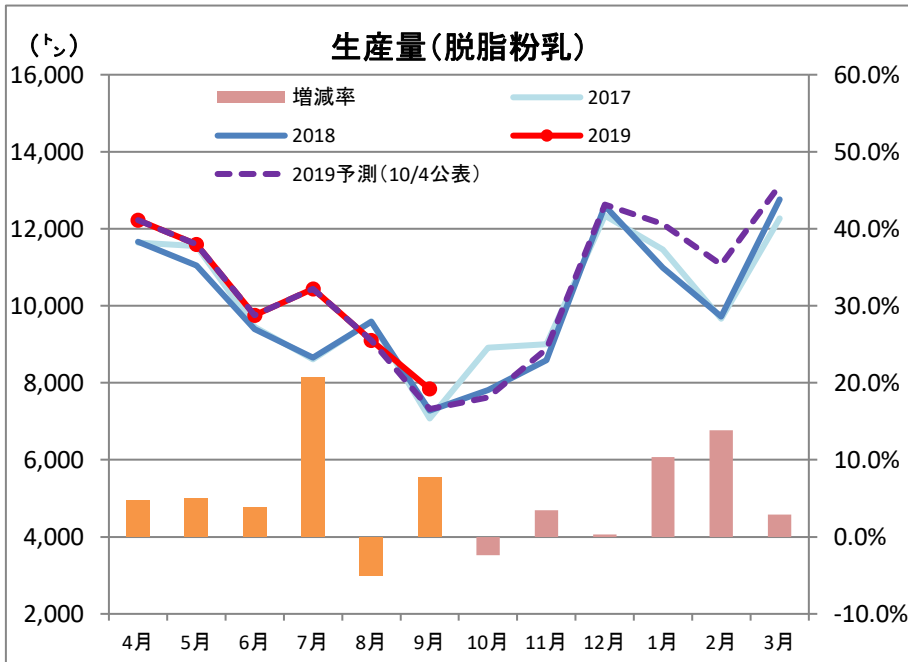
【都府県の生乳需給】 ※増減率は、日均量で算出。

(1)9月の生乳供給量251千ト(前年同月比97.2%)、牛乳等向298千ト(同101.5%)、北海道からの移入量について、62千ト(同125.9%)。
 (2)8月以降、都府県の供給量が大きく減少したため移入量の引き合いが非常に強かった。台風により複数回航路が欠航したものの生産者団体・乳業メーカーの一体となった調整により60千ト以上の結果となった。
 (3)10月の移入量は9月と同程度の引き合いがあり、(台風の影響があったものの)60千ト弱の実績が見込まれる。11月以降も引き合いは強い。



【脱脂粉乳・バター需給】 ※増減率は、日均量で算出。

- (1) 脱脂粉乳は、9月の生産量は7.8千ト(前年同月比107.7%)、推定出回り量は11.1千ト(同94.0%)、その結果、在庫量は67.9千ト(同110.5%)。推定出回り量(≒需要量)は5ヶ月連続で前年割れ。
- (2) バターは、9月の生産量は3.8千ト(同123.0%)、推定出回り量は6.4千ト(同101.8%)、その結果、在庫量は27.3千ト(同109.0%)。推定出回り量(≒需要量)は堅調に推移。
- (3) 脱脂粉乳の輸入枠について、10/4に農水省より6千トの削減された(20千ト⇒14千ト)。今後は10月(実施済み・1.2千ト落札)、12月それぞれ1.5千トが公告されている。
- (4) 一方バターについては、10月まで全量落札が続き、今後は11月、12月、1月にそれぞれ1千トが入札される。これでバターは2019年度枠20千ト全量のスケジュールが示された。



【乳用種からの出生頭数動向】

(1)2019年度8月までの乳用種からの出生頭数(乳用種雄・雌、交雑種)をみると、全国では6月累計までは前年を下回り推移していたが、8月累計比で101.0%と前年を上回った。

(2)特に都府県はこれまでの分娩づれにより7月、8月に出生頭数が増加。乳用種雌牛も同101.6%と前年を上回った。今後もこの傾向が続き後継牛確保に繋がることに期待したい。

(3)2016年度より減少が続いている交雑種について、7月、8月に出生が増加したことにより、全国では同101.2%と前年を上回った。

※家畜改良センターの速報値。

全国

月	合計	前年比	乳用種オス	前年比	乳用種メス	前年比	雌割合	交雑種	前年比
4月	50,802	100.2%	13,193	98.6%	18,857	103.1%	58.8%	16,106	97.5%
5月	50,843	96.6%	13,191	91.6%	19,231	99.7%	59.3%	15,589	94.6%
6月	55,065	97.8%	14,253	93.3%	20,576	98.8%	59.1%	17,220	98.3%
7月	65,748	102.9%	17,223	99.2%	23,853	104.8%	58.1%	21,314	101.9%
8月	66,987	106.0%	17,244	98.7%	24,058	105.9%	58.2%	22,215	111.2%
合計	289,445	41.8%	75,104	40.8%	106,575	42.8%	58.7%	92,444	41.0%
4-8月比		101.0%		96.4%		102.6%			101.2%

北海道

月	合計	前年比	乳用種オス	前年比	乳用種メス	前年比	雌割合	交雑種	前年比
4月	34,583	106.2%	10,696	103.6%	15,132	106.8%	58.6%	7,864	107.4%
5月	35,154	98.2%	10,795	93.6%	15,483	100.7%	58.9%	8,016	98.5%
6月	35,051	97.6%	10,786	92.3%	15,499	98.4%	59.0%	7,914	102.3%
7月	39,921	102.9%	12,472	97.4%	17,287	104.5%	58.1%	9,051	105.1%
8月	39,213	103.1%	12,033	95.5%	16,963	104.3%	58.5%	9,062	110.4%
合計	183,922	44.1%	56,782	42.4%	80,364	44.6%	58.6%	41,907	44.8%
4-8月比		101.6%		96.3%		102.9%			104.7%

都府県

月	合計	前年比	乳用種オス	前年比	乳用種メス	前年比	雌割合	交雑種	前年比
4月	16,219	89.4%	2,497	81.4%	3,725	90.4%	59.9%	8,242	89.7%
5月	15,689	93.2%	2,396	83.5%	3,748	95.5%	61.0%	7,573	90.9%
6月	20,014	98.2%	3,467	96.5%	5,077	100.2%	59.4%	9,306	95.2%
7月	25,827	102.9%	4,751	104.5%	6,566	105.5%	58.0%	12,263	99.6%
8月	27,774	110.4%	5,211	107.1%	7,095	109.9%	57.7%	13,153	111.8%
合計	105,523	38.4%	18,322	36.5%	26,211	38.1%	58.9%	50,537	38.2%
4-8月比		99.9%		96.7%		101.6%			98.4%

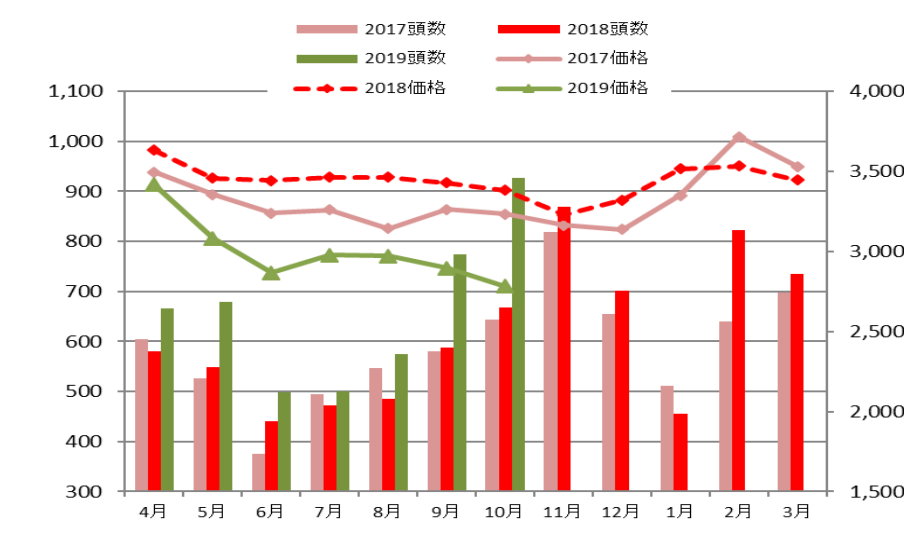
【家畜販売価格動向】

(1)9月の家畜販売価格動向について、ホクレン家畜市場集計によると、初妊牛価格は710千円(前年同期比78.7%)、育成牛価格は341千円(同70.7%)、和牛素牛(去勢)価格は822千円(102.5%)、F1素牛(去勢)価格は497千円(同100.4%)、F1初生(雄)価格は260千円(96.1%)。

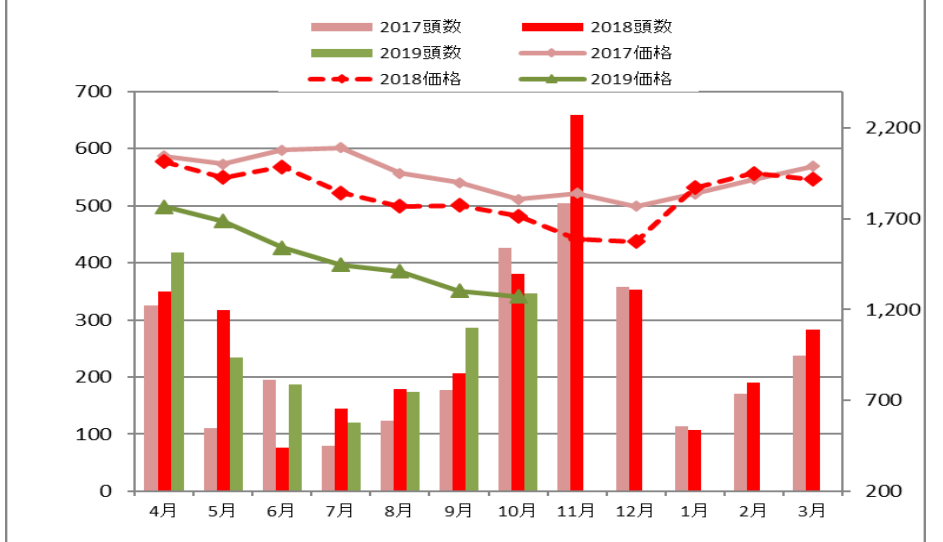
(2)初妊牛、育成牛は上場頭数(≒出回り頭数)は増加傾向に対し、価格は下落が続く。和牛・F1素牛の価格は持ち合いだが、F1初生は、出生頭数の増加が上場頭数の増加に繋がったと見られ、価格については、ここ3ヶ月は弱含みで推移。

※ホクレン家畜市場集計表 速報値 (<https://www.kachiku.hokuren.or.jp/Downloadresult.aspx>)

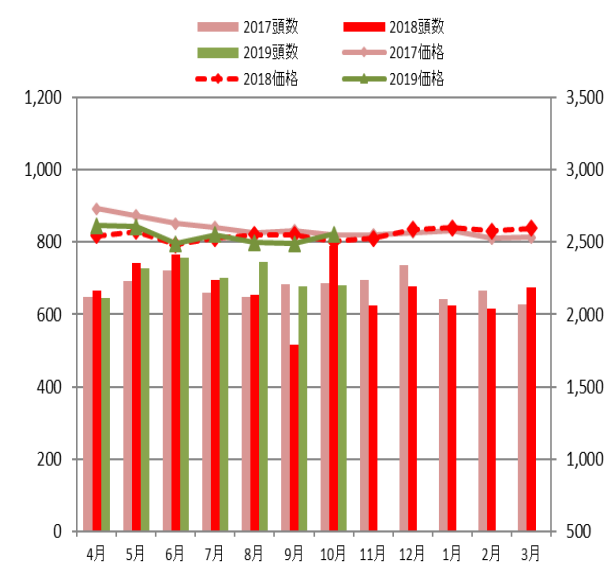
(千円) ホクレン家畜市場 成績一覧表(初妊牛)



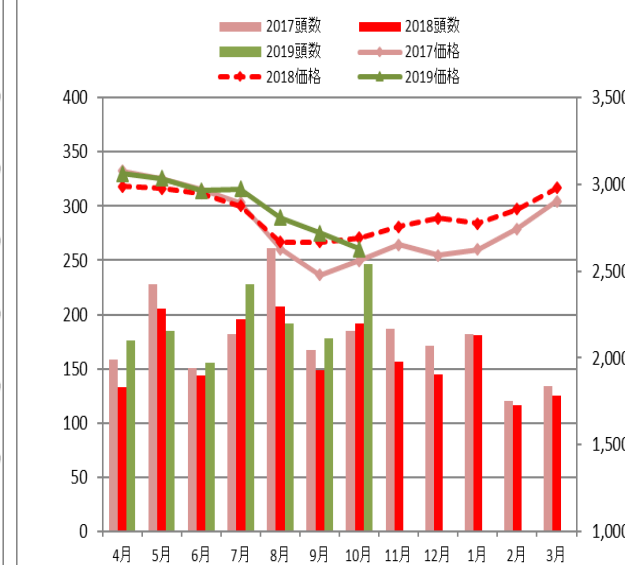
(千円) ホクレン家畜市場 成績一覧表(育成牛)



(千円) ホクレン家畜市場 成績一覧表(黒毛素牛 去勢)



(千円) ホクレン家畜市場 成績一覧表(初生とく F1雄)



(千円) ホクレン家畜市場 成績一覧表(F1素牛 去勢)

